



こうざき 聡 夢からはじまる

http://www.kouzakisatoshi.com



県政報告

自由民主党福岡県議団

令和7年11月号

昭和37年9月20日生
 平成23年4月福岡県議会議員初当選
 平成27年4月二期目
 平成31年4月三期目
 令和5年4月四期目
 添田町立添田小学校・添田中学校卒
 福岡県立田川高等学校卒
 日本大学商学部会計学科卒
 麻生セメント株式会社入社・株式会社
 麻生情報システム転籍
 株式会社麻生情報システム代表取締役
 社長
 福岡県農林水産副委員長、福岡県総務
 企画地域振興委員長

自由民主党福岡県議団
 県民生活高工常任委員会委員
 国際化・多文化共生社会調査特別委員会副委員長
 福岡県議会議員 **神崎 聡**

8月6日からの大雨により、全国各地で被害が発生し、本県においても、2名の尊い命が失われるとともに、家屋や道路、河川、農地、農業用施設、農作物などに被害が発生しました。お亡くなりになられた方々に対し、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様によりお見舞い申し上げます。

福岡県議会9月定例会が9月8日、10月14日の日程で開催されました。大雨の復旧・復興対策として一般会計の総額で92億8900万円の補正予算が可決・成立しました。

人事案件では、大曲昭恵副知事の後任に、県教育庁の前の副教育長の上田哲子氏を起用する人事案に同意しました。

主な意見書では、ガソリン税の暫定税率の廃止や消費税の減税などをめぐり、実施する場合は地方の財政運営に支障が生じないよう代替となる恒久財源を確保することを国に求める意見書が可決されています。

また会期中、決算特別委員会が審議され、20議案が可決承認されました。一方、この定例会が培まる直前に、石破総理が退陣を表明し、自民党総裁選が執行されました。そして10月4日に、自民党総裁に高市早苗氏が就任されました。首班指名では、自民党と日本維新の会との新たな連立政権が樹立され、高市早苗自民党総裁が第104代内閣総理大臣に就任されました。



スマートフォンでも県議会動画

ブログ報告



動画報告



フェイスブック



フェイスブックページ



X (旧ツイッター)



9月定例県議会 一般質問
**一、英彦山・求菩提山の修験道文化における
 広域振興について**

《神崎聡議員質問》

政治の世界というのは、険しい山道を登り、深い谷を越え、ときには断崖絶壁を命綱なしで渡るようなものだと言われます。まさに修験道のように、厳しく険しい道のりなんだと思います。

政治家、一人ひとり、地元事情や置かれている立場・環境は違いますが、毎日が修行、荒行の連続です。現世と異界の狭間で戦う、まさに一寸先は闇、まるで「無限城」のような感じもしています。

本日は、福岡県の誇る「英彦山」と「求菩提山」に伝わる修験道文化について質問を致します。英彦山は、日本三大修験道の一つに数えられ、古来より山岳信仰の拠点として栄えてまいりました。隣接する求菩提山もまた修験の道場として隆盛を誇り、両山はまさに「修験道の双壁」とも言うべき存在であります。

しかしながら現在、観光客数は最盛期の半分以下に減少し、文化財の維持や修験道の継承は大きな課題に直面しております。県としても早急に取り組みべき喫緊の課題であります。

具体的には、
 ・宝満山から英彦山をつなぎ、急峻な箇所が多く難易度の高い「春峰ルート」
 ・血倉山から英彦山をつなぎ、比較的歩きやすい「秋峰ルート」
 ・行橋市香尾海岸の海水を、英彦山へ持ち帰る「お潮井とり」の神事を受け継ぐ「お潮井とりルート」
 そういった、特色ある三つのルートが開発され、旅行商品化されています。



さらに、護摩だき体験を組み込んだツアーや、登山用GPSアプリ「ヤママップ」を活用したデジタルスタンプラリーなどは、大変好評だったと伺っています。また、日田彦山線BRT「ひこぼしライン」を活かした観光振興では、沿線の東峰村や添田町において、英彦山ゆかりの地を巡る体験や、小石原焼の土鍋で炊いた棚田米と地元食材を味わう体験など、地域の魅力を活かしたプログラムが展開されています。今後はさらに、修験道文化の振興と広域的な地域振興策を進展させていきたいと思っております。

英彦山には国指定重要文化財をはじめ、多くの石造物や建造物があり、求菩提山にも豊富な文化資源が存在します。しかし、個別の修理や保存にとどまっては不十分であり、山岳修験文化そのものを「文化的景観」として保全・活用する視点が不可欠です。

観光振興の面では、スロープカーや登山道整備、巡礼路やBRTを活用した地域振興が進んでいます。そこで知事にお尋ね致します。今後どのような施策を講じていくのかお聞かせ下さい。

《服部誠太郎知事答弁》

県では、令和3年2月、平成29年の九州北部豪雨で被災した日田彦山線沿線地域の地域振興を図るため、「九州の自立を考える会」や県議会の皆様の御支援の下、「福岡県日田彦山線沿線地域振興計画」策定した。この計画の中で、日本の三大修験山に選ばれる霊山である「英彦山」を核とした新たな観光周遊・回遊の促進」を重点プロジェクトとして推進している。

具体的には、「英彦山を中心に、雄大な自然・景観と山伏の里としての歴史と山岳信仰の文化を活かした観光や交流、体験等の場の創出」を一つの方向性として、
 ・観光拠点創出に向けた宿坊の整備
 ・英彦山の修験道を巡る3ルートの開発
 ・スロープカーの車両更新
 など様々な事業に取り組んできたところである。

今後も、東峰村、添田町とより一層連携を深め、「九州の自立を考える会」や県議会の皆様の御意見も伺いながら、修験道文化を活用した地域振興に取り組んでまいります。

《神崎聡議員質問》

次に大分県との広域連携について知事にお尋ね致します。

英彦山・求菩提山と宇佐神宮、さらに国東半島の六郷満山文化は、いずれも修験道や神仏習合の文化圏として強い一体性を持っています。これらを結ぶ「修験道ツーリズム」を確立し、福岡・大分両県が連携すれば、「修験・神仏習合の聖地」として九州を代表する広域観光ルートが形成でき、国内外に発信することで、文化財保全と観光振興の両立につながる有効な戦略と考えます。このことは、観光振興のみならず、地域経済、教育、国際交流にも効果が期待できるのではないのでしょうか。英彦山や求菩提山など地域資源を活用した大分県との広域連携について、知事のご所見をお尋ねいたします。

《服部誠太郎知事答弁》

英彦山や求菩提山などで根づいている修験道文化は、古くから、大分県の宇佐神宮や六郷満山などと県境を越えて深いつながりがあるとされています。

県では、昨年4月から6月までの3か月間、大分県と合同で開催した「福岡・大分ステイネーションキャンペーン」において、両県のパワースポットである英彦山・英彦山神宮や宇佐神宮を紹介し、認知度向上及び現地への訪問を促すプロモーションを行った。

また、昨年12月に策定した「県境地域振興ビジョン」では、大分県や関係市町と連携したプロモーション活動に取り組むこととしている。

今後は、求菩提山などの修験道に関わる地域資源を活用した、にぎわいの創出についても、大分県と協議を行ってまいります。



《神崎聡議員質問》

次に「日本三彦山サミット」についてお尋ね致します。

皆さんは、「日本三彦山サミット」をご存じでしょうか。日本三彦山とは、新潟県の弥彦山、兵庫県の雪彦山、そして福岡県の英彦山を指します。三彦山はいずれも古来より修験道の山岳信仰と結びつき、地域の人々の心の拠り所でありました。同じ文化圏を共有する山々と交流することは、精神文化を再評価し、後世に継承していく大きな意義があると考えます。

日本三彦山サミットは、平成3年から平成17年まで4回開催されましたが、平成18年に雪彦山を抱える夢前町が姫路市に合併したことで開催は途絶えました。私は「日本三彦山」という強いブランド力のあるネーミングに加え、「日本三彦山サミット」によるイベントにより、一自治体単独では限界がある観光振興・文化振興が、地域活性化の起爆剤になり得ると思っております。

折しも先月、新潟県の花角知事と服部知事が初の「連携会議」を開催され、観光や起業・創業、ものづくりなどの分野で連携を強め、交流人口の拡大や産業振興につなげていく方針で一致されました。さっそく私も新潟県に行ってみました。そして、弥彦山の麓にある弥彦神社に参拝し、弥彦村役場を訪問して、本間村長にもお会いしてきました。本来、基礎自治体同士が主体となる取り組みについても、両県が広域的な連携を行うおうとしている今回の機会を活かすことで、今後、新たな展開が可能となるのではないかと考えます。

そこで知事にお尋ね致します。このように新潟県と福岡県は、「三彦山」というところでもつながりがあると言えますが、この彦山に関するつながりを活用した新潟県との連携の推進について、どう考えるのか、知事のご所見をお尋ね致します。

《服部誠太郎知事答弁》

福岡県と新潟県は、食や酒についての強みや、伝統工芸品をはじめとするものづくりなどの分野で共通点があり、これまで、観光や起業・創業などの分野において連携を進めてきた。

こうした中、先月26日から27日までの2日間、新潟県を訪問し、両県における「Local to Local」での地域間交流を促進し、相互の観光や産業、文化の振興を一層図るため、「新潟県・福岡県連携会議」を初めて開催した。

今回の訪問では、まず、昨年7月に世界遺産に登録された佐渡市の「佐渡金山」や分散型宿泊施設のまちごとホテル、燕三条地域の「オープンファクトリー」、新潟市のスタートアップ支援施設などを視察した。

その後の会議では、「①観光と食・酒の共同PR」、「②起業・創業」、「③ものづくり産業」、「④世界遺産の保全活動」の4つの分野において連携を進めることで新潟県の花角知事と合意したところである。

人口減少問題や東京への人や財源の一極集中など、我々地方が複雑かつ困難な課題を抱えている中、新潟県の多くの関係者の皆様と地域をどのように活性化させていくべきか、様々な観点から意見交換を行った結果、地域間交流の要となるのは、そこに関わる「人の思い」であることを改めて実感したところである。

今後、両県の間でさらなる取組について検討する際には、お尋ねの「三彦山」についても、観光や文化、地域振興などの観点から、どのような可能性があるのか、まずは県内の地元自治体や関係者などの意向を伺ってまいりたいと考えている。



《神崎聡議員質問》

今年の夏、『劇場版「鬼滅の刃」無限城編第一章 猗窩座再来』が公開、60日間で観客動員2,304万人を超え、興行収入は330億5千万円を突破し、「千と千尋の神隠し」を抜いて、国内歴代2位となりました。

私は令和2年決算特別委員会で、「鬼滅の刃」と英彦山との関わりについて触れましたが、改めて申し上げます。

「鬼滅」とは、英彦山山系の「岳滅鬼山」に由来するのではないかとの説があります。「岳」は「鬼滅」を逆にした文字です。山名の由来は、餓鬼道に落ちた亡者の心を滅するところから来ているとも言われています。

また、英彦山の鬼杉、鬼の階段、鬼の割れ石など、鬼にまつわる伝説は数多く残されています。さらに、御祭神は天照大神の御子・天忍穗耳尊であり、「日の子の山」すなわち英彦山の名の由来ともなっています。鬼を滅する日輪刀との符合もあがるかと考えています。

主人公・竈門炭治郎の師匠、鱗滝左近次は天狗の面は英彦山の天狗を想起させ、求善提山には山伏姿のカラス天狗の伝承も残されています。水を操る力が伝わっており、水柱・富岡義勇の「水の呼吸」と重なります。

さらに、「竈門」の名は、平安時代末期の歌謡集「梁塵秘抄」に、「筑紫の靈験所 竈門の本山 彦の山」として記されており、作中の炭治郎の家に伝わる「ヒノカミ神楽」は、継国縁者の「日の呼吸」が形を変えて残ったものとされています。宮崎県椎葉村の尾前神楽には、「火の神うじいれ作法」（火の神楽）があり、かまどに火を再生させる神聖な儀式が行われています。

そして英彦山でも修験道由来の神楽が伝承され、火伏せや五穀豊穡、悪霊退散を祈る儀式が、松明や篝火を用いて舞われてきました。現在では英彦山神宮での奉納は途絶えましたが、津野神楽や豊前神楽、東峰村の小石原千灯明などに形を変えて受け継がれています。

このように、英彦山の修験文化と「鬼滅の刃」との親和性は数多く見いだされます。伝統的な修験道文化を現代の作品とも関連づけて紹介することで、若い世代にとっても英彦山の魅力や価値をより身近に感じてもらうとを考えます。

添田町・東峰村にまたがる英彦山地域の文化資源を、県としてどのように地域振興に結び付けるのか、知事のご所見をお聞かせ下さい。

《服部誠太郎知事答弁》
英彦山周辺には、修験道の聖地である英彦山神宮や修験道の行場であった行者堂など、修験道文化に根差した多様な文化資源がある。

県では、こうした資源を地域振興に活かすため、東峰村、添田町とともに、海外映画やドラマのロケーション誘致に取り組んでいる。

具体的には、東峰村、添田町にある文化資源の1,2か所でロケを行い、映画「武蔵」を制作した。この映画を昨年11月に米国ハリウッドで開催された国際映画祭に出展したところ、大変好評を博した。

その後、撮影に関する問い合わせが海外から多数寄せられるなど、注目が集まっているところである。

また、この地域には文化資源だけでなく、岩屋湧水、彦山川の清流などの自然や伝統産業である小石原焼・高取焼など、特徴的な地域資源も多数ある。

今後とも、様々な地域資源を活かし、東峰村、添田町にまたがる英彦山地域の地域振興に努めてまいります。

《神崎聡議員》

大分県との広域的な連携、「日本三彦山」という強いブランド力、そして日本が誇るポップカルチャーの取り込みによって、英彦山が九州の誇りにとどまらず、日本の宝として、そして未来には世界が注目する聖地となることを強く期待し、私の質問を締めくくらせて頂きます。ご清聴、ありがとうございました。



一般質問をするにあたり

令和7年8月27日、新潟県の花角知事と福岡県の服部知事が様々な分野や地域間での交流を促進するため、初の「連携会議」を開催しました。

さっそく私は9月2日、新潟県を訪問し、「日本三彦山（弥彦山〔新潟〕・雪彦山〔兵庫〕・英彦山〔福岡〕）」の一つ、新潟県の弥彦山を訪ね弥彦村長にお会いしてきました。

日本三彦山サミットは、平成3年から17年まで5回開催され、弥彦山・雪彦山・英彦山が修験道の歴史と文化を共有し、地域活性化を目指した意義ある交流でした。雪彦山の夢前町が姫路市に合併したことで開催は途絶えました。

しかしながら、三彦山を結ぶネットワークと「日本三彦山」というネーミング自体に強いブランド力があり、さらには、一自治体単独では限界がある観光振興・文化振興も、全国の「三彦山」と連携することで国・県への働きかけが強まり、補助金や事業採択にも有利となる等、地域活性化を目指した意義ある交流だったんだと思います。

また、9月11日朝一番で英彦山神宮奉幣殿に高千穂宮司を訪ねてヒアリングを行ないました。その後、添田町役場で町長、副町長と打ち合わせでした。



令和7年決算特別委員会（委員）～農林水産部所管分本県の林道整備について



（神崎聡委員）

自民党県議団の神崎聡です。私は生まれた時から、緑に囲まれ、空気も水も美味しい自然豊かな環境に育ちました。私の祖先も、また子どもたちも同じように過ごしてきました。そんな「当たり前の風景」である森林や清流がありますが、実は、先人が築き、守り、受け継いできた営みの結果なんだと思います。

森林は、木材生産のみならず、国土の保全や水源のかん養、さらには災害防止や地球温暖化対策など、多くの機能を持ち、私たち県民に計り知れない恩恵を与えてきました。この大切な財産を守り育て、健全な姿で次の世代に引き継いでいくことは、今を生きる私たちの責務であります。

本県の森林は県土の約45%を占め、その多くはスギやヒノキの人工林で、いま利用期を迎えています。しかし木材価格の低迷や、林道から遠いなどの非効率性により、主伐が進まない地域もあります。林道を整備することで、林業機械の活用や効率的な運搬が可能となり、生産性は大きく向上します。さらに、間伐などの森林整備も進み、災害防止や水源涵養といった多面的機能の発揮にもつながります。

そこで、本県の林道整備について質問させていただきます。まず、林道整備の目的についてお聞かせください。

（農村森林整備課長）

林道は、造林、保育などの適正な森林整備や木材生産量の拡大、労働条件の改善を主な目的として森林内に整備する道路であり、県や市町村では、民有林を対象に林道整備を進めております。

（神崎聡委員）

林道の目的が木材生産であるということは、スギやヒノキの人工林が多い地域において、整備を進めるべきではないかと思えます。

また、林道がどれだけ整備されているかを示す指標として林道密度がありますが、この密度が高いほど、森林整備や木材生産が効率的に行えることを意味していると考えています。

そこで、県内の民有林の人工林率と、整備されている林道の総延長および、林道密度についてお聞かせください。あわせて、私の地元である添田町の現状もお聞かせください。

（農村森林整備課長）

県内の民有林の人工林率は6.4パーセントで、添田町は県平均より1.8ポイント高い、8.2パーセントになっています。

また、県内の林道総延長は、昨年度末時点で、約1,600キロメートル、林道密度は、1ヘクタール当たり8.3メートルとなっています。

なお、添田町の延長は、約7.3キロメートルで、林道密度は県平均より低い、1ヘクタール当たり7.2メートルとなっています。

（神崎聡委員）

林野庁が示しています持続可能な森林整備に必要な林道密度は、1ヘクタール当たり、15～20mとなっておりますから、福岡県の現状は、半分程度であるということがわかりました。

また、添田町は、人工林率が県の平均より高く、その一方で、林道密度は県の平均より低い状況とのことですが、県内の人工林の多い地域では、まだまだ林道整備が必要ではないでしょうか。

しかしながら、林道を計画するには、傾斜が急で起伏が多い森林において効果的に道を配置してだけでなく、数多い森林の所有者や境界を特定するなど、多くの課題があると思えます。

このため、地元の市町村や森林組合など関係者の協力を得ながら進めていくことも、必要ではないかと考えます。

そこで、林道を整備するには、どのように計画を立てて進めているのか、事業採択までの過程と併せてお答えください。

（農村森林整備課長）

県では、林道整備にあたって、地元からの要望を受け、関係市町村や森林組合などと連携し、効率的な森林整備や木材生産が可能となる区域の現地調査を行います。

その結果を元に、森林資源の状況や地形などを考慮した上で、道路線形や規模などの事業計画を策定し、その後、国の承認を受けて採択となります。

（神崎聡委員）

林道整備の基本的な計画の考え方は分かりました。地元からの要望を受けてから、工事着手となると数年はかかる計算になるんですね。

一方、今年2月から3月にかけて、岩手県大船渡市や愛媛県今治市など全国各地で大規模な山火事が発生し、多くの森林が失われました。山火事は、傾斜があり、水の確保が難しく、火災発生地へのアクセスが悪いといったことから、消火活動は非常に困難なものであります。しかしながら、林道があることで、迅速な消火活動が可能となることから、防災の面からも林道の重要性は高まっております。

そこで、お尋ねします。県では、林道の整備にあたり、木材生産だけでなく、防災や地域振興の観点から、どのように計画しているのか、具体的な事例も踏まえお答えください。

（農村森林整備課長）

県では、林道整備にあたって、地元からの要望を受け、関係市町村や森林組合などと連携し、効率的な森林整備や木材生産が可能となる区域の現地調査を行います。

その結果を元に、森林資源の状況や地形などを考慮した上で、道路線形や規模などの事業計画を策定し、その後、国の承認を受けて採択となります。

（神崎聡委員）

林道整備の基本的な計画の考え方は分かりました。地元からの要望を受けてから、工事着手となると数年はかかる計算になるんですね。一方、今年2月から3月にかけて、岩手県大船渡市や愛媛県今治市など全国各地で大規模な山火事が発生し、多くの森林が失われました。山火事は、傾斜があり、水の確保が難しく、火災発生地へのアクセスが悪いといったことから、消火活動は非常に困難なものであります。しかしながら、林道があることで、迅速な消火活動が可能となることから、防災の面からも林道の重要性は高まっております。

そこで、お尋ねします。県では、林道の整備にあたり、木材生産だけでなく、防災や地域振興の観点から、どのように計画しているのか、具体的な事例も踏まえお答えください。

（農村森林整備課長）

県では、林道の防災機能を発揮するため、大雨被害により公道が被災し、通行止めとなった際の「う回路」となる線形や、防火水槽などの山火事防止施設を計画することとしています。

また、山村地域に点在する集落を林道でつなげることで、住民の生活の利便性が向上するよう計画しています。

具体例としましては、添田町と赤村を結ぶ林道岩石線は、一般道並みの片側1車線とすることで、地域の生活道として役立っており、緊急時には、「う回路」としての機能も有しています。

（神崎聡委員）

課長の説明で、林道には、木材生産だけでなく、防災や地域振興も考慮して計画されているということが、よく理解できました。その計画した林道を具体化していくためには、やはり、その財源の確保が重要であると考えます。

そこで、お尋ねします。国では、林道の整備にも活用できる財源として「森林環境譲与税」を市町村に譲与しておりますが、昨年度の添田町への譲与額はどの程度か。また、その財源をどのように活用しているのかお答えください。

（森林振興課長）

「森林環境譲与税」は、令和元年度から、森林整備等に必要な地方財源を確保するため、国から県や市町村に対し譲与されております。昨年度の添田町への譲与額は、5千180万円余となっております。植栽や下草刈り等の森林整備、本年四月に開校した添田町立小中学校の内装木質化、町内の新生児や幼児への木製おもちゃの贈呈といった取組に、活用されています。

（神崎聡委員）

添田小学校・中学校は私の母校ですが、「森林環境譲与税」が新校舎に活用されているということは知りませんでした。添田町では、「森林環境譲与税」は林道整備ではなく、森林整備や木材利用といった様々な課題に対応するために活用されているんですね。

そういった中で現在、添田町では林道が整備中でありまして、では、その林道整備にかかる財源と総事業費、そして、進捗状況をお聞かせください。また、林道の整備による効果についても、併せてお聞かせください。

（農村森林整備課長）

現在、県が事業主体となり、添田町の津野地区において林道豊前坊線を整備しております。総延長は約1.7キロメートル、総事業費約5.0億円であり、昨年度末時点で9.7パーセントが完成し、来年度には全線開通を予定しております。

整備にあたっては、国庫事業を活用しており、補助金については、すべて県が負担しています。効果につきましては、林道豊前坊線の整備前、周辺の森林では主伐が実施されていませんでしたが、整備を開始した平成20年度以降、約100ヘクタールの主伐が実施されています。

（神崎聡委員）

林道豊前坊線は、国庫事業を活用し、計画的に進められており、林道の整備が進むことで、木材の生産が拡大しているとの答弁でした。

そこで、お尋ねします。県では、さらなる木材生産の拡大に向け、林道の整備とあわせ、どのような対策を行っているのか、その実績と併せてお答えください。

（森林振興課長）

県では、主伐の搬出経費の一部助成するとともに、木材生産の低コスト化を図るため、林道の整備とあわせて、作業道整備や高性能林業機械の導入を支援しております。

このような取組の結果、昨年の木材生産量は、約35万1,000立方メートルとなり、5年前に比べて2割増加しております。

（神崎聡委員）

林道の整備に加え主伐の推進により、本県の木材生産は確実に拡大しているとのことですが。私の地元添田町を含め県内の山間地域では、林業は基幹産業の一つであります。今まさに、利用期を迎えた森林を「伐って、使って、植えて、育てる」という形で、森林資源の循環利用を進めることにより、この林業を成長産業化させることで、地域の雇用を守り、所得の確保につなげていくことが重要であると考えます。

林道豊前坊線は、来年度に完成予定とのことですが、山間地域に不可欠な「動脈」とも言える重要なインフラである林道を、計画的に進めていくことが必要であります。

最後に、林業の成長産業化に向け、本県の計画的な林道整備に対する部長の決意をお聞かせ願います。

（農林水産部長）

林道は、高性能林業機械の森林内への搬入や、大型トラックによる木材の搬出を可能にし、林業の低コスト化に大きく寄与することから、林業の成長産業化を支える重要な生産基盤であります。また、山村地域の生活道路としての機能に加え、災害時における、集落の孤立を防ぐためのう回路や、緊急車両の通路としても利用できることから、防災の面からも、委員ご指摘のとおり、林道は地域の重要なインフラであると認識しています。

県としましては、引き続き、林道整備を計画的に実施できるよう、国に対して、予算の確保について要望していくとともに、関係市町村と連携し、林道の整備をしっかりと進めてまいります。



県の仕事は非常に広範囲かつ複雑なので、議案等を能率よく専門的に審査するために、委員会を設置しています。委員会は、閉会後も必要に応じて審査や調査を行い、県政に反映させるため活動しています。常任委員会は、その所管に属する県の事務に関する調査及び議案、請願等を審査するため設置されています。

県民生活・商工常任委員会

県民生活商工委員会は、多様な主体の協働の推進、県民の文化及びスポーツの振興、男女共同参画社会の推進、安全・安心まちづくり及び消費者政策の推進、中小企業振興、先端成長産業の育成、観光振興、企業立地の推進、電気・工業用水道及び工業用地造成事業などについて審査及び調査を行っています。

県民生活常任委員会

(令和7年9月24日 開会中)

1 議案審査 (1件)

(1) 第133号議案

福岡県公営企業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

2 知事等保留質疑

3 議案採決

4 所管事務調査 (5件)

(1) 第2期福岡県文化芸術振興基本計画の策定について

(2) 第5次福岡県男女共同参画計画の実施状況 (令和6年度) 及び第6次福岡県男女共同参画計画の策定について

(3) 第2次福岡県犯罪被害者等支援計画の実施状況 (令和6年度) について

(4) 「福岡県中小企業DX推進センター」の開所について

(5) 一般社団法人九州観光機構の事業について

5 報告事項 (5件)

(1) ふくおか県芸術文化祭2025の開催について

(2) 「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録10周年記念事業について

(3) 福岡県ジェンダー平等フォーラム2025の開催について

(4) プレミアム付き地域商品券発行支援事業の実施結果について

(5) Japan Mobility Show Fukuoka2025の開催について

6 閉会中の調査事項について

7 今後の委員会活動について

福岡県企業局事業の概要

企業局では、産業経済の振興と公共の福祉の増進を図るため、地方公営企業法 (昭和27年法律第292号) 及び福岡県公営企業の設置等に関する条例 (昭和42年福岡県条例第17号) に基づいて、①電気事業、②工業用水道事業、③工業用造成事業の3事業を行っています。

1. 電気事業

矢部川水系の日向神ダム及び松瀬ダム並びに那珂川水系の南畑ダムをそれぞれを利用して大洲発電所、木屋発電所及びちくし発電所の3箇所水力発電を行っている。

令和6年度は、年間50,092,505kWhの発電を行い、九州電力㈱に供給した。

発電施設等の状況

発電所名	使用河川名	発電開始年月日	発電方式	最大出力 (KW)	供給発電量 (KWh)	料金 (税抜)
大洲発電所	矢部川	S36.1.29	ダム式	7,500		・基本料金 年額412,698千円
木屋発電所	矢部川	S38.6.8	ダム水路式	6,000		・電力量料金 1KWhにつき1円
ちくし発電所	那珂川	H4.10.1	ダム式	550		・発電側課金分上乗せ 年額21,922千円
計					50,092,505	・料金 (基本料金+電力量料金+発電側課金分) 484,713千円

電気事業は、地方公営企業法に基づき地方公共団体が経営する発電事業であり、山々に囲まれた地形と水に恵まれた我が国の自然環境を生かし、多くの都道府県において水力発電が行われています。

本県においても、大洲、木屋及びちくし発電所により発電を行っています。

令和6年度の供給電力量は、50,092,505kWh (年間目標供給電力の109.8%) で、料金収入は、484,712,863円 (令和6年度福岡県電気事業損益計算書より。消費税抜き) となっています。

直近5年間の収支状況 (各年度福岡県電気事業計算書より。消費税抜き) は以下の表の通りです。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
収入	480,058	475,865	478,917	492,422	502,912
支出	449,993	439,031	447,963	474,234	446,528
収入-支出 (当期利益)	30,065	36,834	30,954	18,188	56,384

(単位: 千円)

※平成22年度から令和7年度は、発電電力の供給先として九州電力㈱と長期基本契約を締結。

令和8年度以降は、契約の方法を一般競争入札に見直す。

一 県営ダム活用による水力発電・自主財源確保について

(神崎聡県議)

県営ダムを活用した水力発電事業についてお伺いします。

たしか平成24年度に、県営12ダムの維持放流水を対象とした、水力開発可能性調査を実施されたこと記憶していますが、その結果についてご説明いただけますか。

(企業局)

はい。平成24年度に県営12ダムの維持放流水を対象とした調査を行い、その結果を検証しました。その中で、矢部川水系の日向神ダムにある大洲発電所 (昭和36年)、木屋発電所 (昭和38年)、また那賀川水系南畑ダムのちくし発電所 (平成4年) を除きますと、糸島市の瑞梅寺ダム、うきは市の藤波ダムについては採算性が見込めるものの、全体としては経済性に乏しい、という結論でした。

なお、その後、瑞梅寺ダムについては糸島市が平成28年度から、藤波ダムについてはうきは市が平成29年度から発電事業を開始しております。

(神崎聡県議)

なるほど。つまり県としては「経済性が乏しい」と判断されたが、地元自治体にとっては「自主財源の確保が可能」と考え、事業に踏み切ったわけですね。

言い換えれば、採算の分岐点のギリギリのところか、糸島市やうきは市のダムだったということになります。では、それ以外のダムで、採算ラインに近いと判断されたものはありますか。

(企業局)

はい。添田町にごさいます油木ダムと陣屋ダムが、損益分岐点に近い位置づけとされています。

(神崎聡県議)

油木ダム、そして陣屋ダムですね。ただ、この調査は平成24年度、つまり今から12~13年前のものです。

当時と比べて、発電設備の性能や、初期投資にかかるコストはかなり変化しているのではないかと推察します。

そこで、当時の投資額と、現在の水力発電設備の建設単価とを比較検証する必要があると思いますが、この点についてはいかがでしょうか。

(企業局)

ご指摘のとおり、技術革新や市場の変化により、当時の試算と現在の状況に乖離がある可能性は否定できません。

今後、必要に応じて最新の設備単価や国の補助制度を踏まえた再調査を検討する余地があると考えております。

(神崎聡県議)

ありがとうございます。近年、再生可能エネルギーの導入は全国的に進んでおりますが、太陽光や風力に比べ、水力は安定的で、持続可能な発電が可能です。

県営ダムの水資源を活かし、電力販売による収益を自治体の自主財源として確保することは、人口減少や財政難に直面する地方自治体にとって大変重要な施策であると考えます。

もちろん、県営ダムは治水や利水を主目的として建設されており、必ずしも発電を前提とした設計ではありません。しかし全国的にも、自治体や民間事業者が小水力発電に取り組み、地域のエネルギー利用や自主財源確保につなげている事例が出てきています。

特に、添田町の油木ダムや陣屋ダムは、一定の水量を安定して確保できる施設であり、小規模ながらも持続可能な水力発電導入の適地ではないかと考えます。既に油木ダムでは北九州市が水力発電を行っているとの事です。

そこでお尋ねします。仮に地元自治体から調査研究の要望があった場合、県としてはどのような支援が可能でしょうか。

(企業局)

小水力発電の導入にあたりましては、調査・設計費用の確保、発電設備の設置に伴う初期投資、さらには電力販売に関する事業スキームの構築といった課題がございます。県といたしましても、国の補助制度や再生可能エネルギー関連の支援策を積極的に活用しつつ、自治体や地域事業者と連携して調査・計画段階から伴走支援を行うことは可能と考えております。また、事業化に向けた官民連携の枠組みづくりについても、関係部局と連携しながら検討してまいります。



国際化・多文化共生社会調査特別委員会（副委員長）

国際的経済競争の激化、外国の人材受入れ拡大などグローバル社会の進展に伴う課題及び国際交流に関する諸施策の推進を図るため14名の委員をもって構成する。

- 1 外国人観光客の増加に伴う課題に関する諸調査
- 2 外国人労働者の受入れ拡大、外国人材の活用等多文化共生社会に関する諸調査
- 3 県内商工業及び農林水産業の国際競争力の強化に関する諸調査
- 4 九州国立博物館、新県立美術館等による文化交流その他の国際交流に関する諸調査

※「国際化・多文化共生社会」に関する考察（私見）

福岡県が持続可能で活力ある地域社会を築いていくためには、国際化の流れを現実として受け止め、地域の秩序と調和を保ちながら対応していくことが重要です。少子高齢化の進展により、地域の担い手や労働力の確保が課題となる中で、外国人住民や技能実習生、留学生などが地域の一員として一定の役割を担うようになってきています。もはや国際化は都市部だけの課題ではなく、農山村を含む県内全域で直面する現実です。

私は、多文化共生とは「文化の混在」ではなく、日本の法秩序・伝統・公共の精神を尊重した上での「共に働き、支え合う地域づくり」だと考えています。外国人の方々にも日本社会のルールや慣習を理解し、地域の一員としての責任を果たしていただくことが前提です。過度な同化を求めるのでは

なく、互いに尊重しながらも、日本社会の根幹にある価値を共有する必要があります。

行政としては、日本語教育や生活支援、医療・防災などの基本的な支援体制を整える一方で、地域の秩序を守り、安心して暮らせる環境を確保していくことが不可欠です。国際化への対応とは、決して一方的な受け入れではなく、地域社会を守るための現実的な政策対応であるべきです。

私は、福岡県における多文化共生を「日本の伝統と法秩序を基盤とした国際化」として位置づけています。民主主義や人権尊重といった普遍的価値を踏まえつつも、地域の文化・慣習を大切に、外国人も地域のルールを尊重する。そのバランスこそが日本らしい共生のあり方です。

多文化共生を通じて、地域の産業や教育、文化の新たな可能性を開きながら、次の世代に誇れる福岡県を築いてまいります。

国際化・多文化共生社会調査特別委員会管外視察（愛知県）

令和7年10月22日～24日の日程で、国際化・多文化共生社会調査特別委員会の管外視察として愛知県を訪問。訪問先は以下の通りです。

①愛知県庁（県民文化局）

全国の在留外国人の状況では、愛知県は全国で3番目に多く、県内の外国人は345,900人（2024年6月末現在）で過去最高を記録している。（県に占める割合は約4.6%）愛知県では、「国籍や民族等の違いにかかわらず、すべての県民が互いの文化的背景や考え方を理解し、ともに安心して暮らして活躍できる地域社会」を目指して取り組んでいる。

第4次あいち多文化共生推進プランでは、4つの柱として、

- ・コミュニケーション支援（日本語教育、やさしい日本語を含めた多言語対応の推進など）
- ・生活支援（ライフサイクルに応じた継続的な支援、防災や医療等、生活へのリスクに対応する体制の整備など）
- ・意識啓発と社会参画支援（外国人県民と日本人県民の相互理解促進に向けた啓発活動や外国人県民が地域社会の一員として主体的に参加できる環境の整備など）
- ・知己活性化の推進やグローバル化への対応（外国人県民と日本人県民の連携・協働による地域活性化とグローバル化の促進）

「国際化」と「多文化共生」を一体的に進める取組として、特に印象的だったのは、産官連携による「地域日本語教室支援活動」。企業8社から46名の社員がボランティアとして地域の日本語教室支援活動に参加し、地域の外国人の方々との交流や日本語学習を支えている。単なる支援ではなく、企業の社会参画・人材定着・地域づくりを一体で進める好例だと感じた。

福岡県もアジアの玄関口として国際的な人の流れが加速している中で、今回の視察を通じて、「共生から共創へ」地域の力を結集し、多文化を活かす“新しい地域づくり”の方向性をあらためて考えさせられた。



②国際芸術祭「あいち2025」

名古屋・瀬戸で開催中の「灰と薔薇のあいまに」というテーマのもと、国内外から集まったアーティストたちの最新表現に触れてきた。

「あいちトリエンナーレ」として2010年に始まり、以降3年ごとに開催されている。日本で最大規模の芸術祭の一つとして、毎回、現代美術展に、30か国、70組程度のアーティストが参加。愛知芸術文化センターにある名古屋市のほか、県内の他の都市でも開催され、現代美術展を軸に、舞台芸術公演、ラーニング・プログラムなど複合的に展開し、加えてジャンルを横断した展開も実施。

会場は、栄・愛知芸術文化センター、瀬戸市のまちなか、陶磁美術館など。都市の中心から、歴史ある窯業の町まで、場の持つ空気が作品と豊かに響き合っていた。「消失/再生」「人間/自然」「記憶/現在」というテーマが、作品を通して静かに語りかけてくる。普段アートの馴染みがない人にも、“場”として楽しめる構成だと感じた。また、田川が誇る山本作兵衛の作品も数多く展示されていた。



③愛知県豊橋市の NPO法人シェイクハンズ

外国にルーツを持つ子どもたちの「居場所づくり」について視察を行った。シェイクハンズは、日本語が十分に話せない子どもたちに学習支援を行うだけでなく、安心して過ごせる“居場所”として、家庭や地域とつながる役割を果たしている。学校や行政だけでは届きにくい支援を、地域の方で丁寧に実践されている姿が印象的だった。特に20年間に渡り取り組まれてきた松本里美代表理事の熱量・使命感には敬意を表するとともに感動を覚えた。福岡県でも、外国人県民の増加に伴い、日本語が十分に話せない子どもたちの学習支援や進学支援、また保護者とのコミュニケーション支援などが大きな課題となっている。今回の視察で学んだように、行政だけでなく、地域やNPO、教育機関が一体となって支える仕組みづくりがますます重要になると考える。子どもたちが安心して学び、将来に希望を持てる社会の実現に向けて、現場の声をしっかりと県政に反映していきたいと思う。



④名古屋市に新しく誕生した「STATION Ai」

ここは、愛知県が整備し、ソフトバンクが運営する日本最大級のスタートアップ支援拠点。

スタートアップ企業や大学、大企業、投資家などが一堂に集まり、ビジネス創出を支える「知と人の交差点」として機能している。起業から成長、海外展開までを一体的に支援する仕組みが整い、すでに多くの企業が入居して活動を始めていた。印象的だったのは、行政と民間が明確に役割を分担し、互いの強みを活かしている点。県が政策的支援を行い、ソフトバンクがAIやDX分野のノウハウを提供。まさに官民連携による「挑戦者のための拠点づくり」が進んでいた。

一方で、福岡県では「Fukuoka CIC（ケンブリッジ・イノベーション・センター）」があり、国内外のスタートアップ、大学、投資家などが集う国際的な連携拠点として機能している。CICは福岡市、九州大学、工場企業が連携し、人材育成と事業創出を両立させている点特徴となっている。「STATION Ai」、「Fukuoka CIC」それぞれの地域が、強みを活かしたスタートアップ事業を展開している。福岡県としても、こうした全国の先進事例を参考にしながら、地域発のイノベーションを後押しし、若者が挑戦できる環境をさらに整えていくことが重要だと思う。



【福岡超集積半導体ソリューションセンター開所式】

令和7年8月25日15時より、福岡超集積半導体ソリューションセンター開所式がありました。福岡超集積半導体ソリューションセンターは、「三次元半導体研究センター」と「社会システム実証センター」を統合改組し、半導体実装分野で設計から実装・試作・評価までをワンストップで支援する国内唯一の公的機関です。そして企業の様々な課題を解決する体制を実現します。

福岡超集積半導体ソリューションセンターは、複数の半導体チップを3次元に積層する等、関連製品の高密度化・パッケージ化を図るために必要な機器を整備しており、研究開発、試作・評価を支援します。世界をリードする半導体最先端実装拠点として、新技術の研究・開発により新産業の創出・育成に貢献します。

センター長・技術アドバイザーに先端半導体研究におけるトップ研究者を招聘し、最先端機器の導入を進め、開発支援力を大幅に強化していきます。

そのセンター長に我が母校、福岡県立田川高等学校の30期の知京豊裕知氏、副センター長には36期の野北寛太氏が就任されました。知京さんは国立研究開発法人物質・材料研究機構(NIMS)理事長特別補佐で、半導体材料分野を代表する研究者として、新材料開発に関する様々な研究を主導され、技術研究組合最先端半導体技術センター(LSTC)では、次世代トランジスタ構造や先端パッケージ実現に向けた素材開発の部門長に就任されています。

令和7年度当初予算には、グリーンデバイス開発生産拠点の形成として、超集積半導体の産業化を推進し2,427万円を、半導体後工程を中心に新規参入の新製品開発等の支援に3,933万円を可決しています。



【福岡県中小企業DX推進センター開所式】

令和7年10月20日より、福岡県中小企業DX推進センター開所式がありました。

近年、急速に進むデジタル技術の活用や少子高齢化の進行に伴う多くの分野での人手不足など、わが国を取り巻く社会経営環境は大きく変化しています。令和7年においても米国の関税措置への対応や、世界各地の紛争や円安の影響などによるエネルギーや原材料価格の上昇など中小企業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

このような中でも県経済が継続的に成長していくためには、雇用の約8割を担い、本県経済の発展と活力の原動力である中小企業の皆さまの持続的な質上げを実現し、賃金と物価の好循環を生み出していくことが必要です。そして、賃上げの実現のためには、さらなる生産性の向上やDX（デジタル技術を活用した業務プロセスやビジネスモデルの変革）の対応が求められます。

県では、中小企業の皆さまの生産性向上のため、企業診断から改善提案や設備導入まで一貫した支援を行う「福岡県中小企業生産性向上支援センター」を全国で初めて開設し、アドバイザーの現場訪問など併走型の支援を行ってまいりました。

中小企業が直面する人手不足、納期、収益面などの経営課題を解決するためには、業務プロセスの改善や自動化による生産性向上の取り組みが必要不可欠です。

また、中小企業におけるデジタル化に対する優先度は、コロナ禍前後で大きく変化し、全ての業種においてデジタル化のニーズが高まっています。

福岡県中小企業DX推進センターは、県内の中小企業の皆様のデジタル化をはじめとした生産性向上の取り組みを併走型で一貫支援します。

また、コロナ禍で特に大きな影響を受けた宿泊業については、今後の観光需要の回復を見据え、宿泊業の現場に精通した専門のアドバイザーが併走支援を行います。



令和7年10月29日、「筑豊地区商工会と地元県議との懇談会」に出席してきましたが、この福岡県中小企業DX推進センターの紹介と内容についての説明をし、併せて福岡超集積半導体ソリューションセンターについても触れさせていただきました。

懇談会では、筑豊地区商工会の現状や地域の小規模事業者が直面している課題等々、筑豊支部会長会からの要望や筑育連活動報告・要望、県女連筑豊支部活動報告・要望の後、意見と質疑応答が活発に行われ、大変貴重な意見や要望を承りました。県の中小企業・小規模事業者への施策や様々な取り組みを活用して頂きたいと思っております。



福岡県立田川高等学校・岳陽同窓会総会／懇親会



かわさきフェスタ2025

添田町白山神宮・添田神社秋季大祭



大任町しじみ祭り

添田町・森坪清則氏 黄綬褒章受章記念祝賀会



略歴

- 昭和53年 添田町立添田中学校卒業
- 昭和56年 福岡県立田川高等学校卒業卒業
- 昭和60年 日本大学商学部会計学科卒業
- 昭和60年 麻生セメント株式会社入社
- 平成2年 株式会社麻生情報システム転籍(分社化)
- 平成12年 株式会社麻生情報システム 取締役
- 平成13年 株式会社麻生情報システム 代表取締役
- 平成23年 福岡県議選(田川郡区) 初当選
- 平成27年 福岡県議選(田川郡区) 2期目当選
- 平成31年 福岡県議選(田川郡区) 3期目当選
- 令和5年 福岡県議選(田川郡区) 4期目当選

福岡県議会で主な所属

- 自民党福岡県議団
- 県民生活商工常任委員会 委員
- 国際化・多文化共生社会調査特別委員会 副委員長
- 福岡県消費生活審議会 委員
- 福岡県文化議員連盟 副会長
- 福岡県タイ友好議員連盟
- 福岡県森林・林業・林産業活性化促進議員連盟
- 福岡県日韓友好議員連盟 副会長
- 福岡県日米友好議員連盟
- 福岡県日中友好議員連盟
- 福岡県国際交流推進議員連盟
- 福岡県ベトナム友好議員連盟
- 福岡県日台友好議員連盟
- 福岡県防衛議員連盟
- 福岡県果樹振興議員連盟
- 過疎地域活性化対策福岡県議員連盟
- 産地地域活性化対策福岡県議員連盟
- オイスカ国際活動促進福岡県議員連盟
- 福岡県観光産業振興議員連盟
- 福岡県地域公共交通事業振興議員連盟
- 福岡県スポーツ議員連盟
- 九州・沖縄未来創造会議
- 九州の自立を考える会
- 日本会議福岡支部
- 田川直方バイパス延伸推進期成会 顧問
- 田川広域観光協会 理事
- 下関北九州道路整備促進福岡県議員連盟
- 福岡県日田彦山線沿線地域振興推進協議会 委員

AIR (Artist In Residence) 事業～ミニコンサート



- 曲目
- ロジャース作曲
ザラント・オブ・ミュージックメドレー
 - ブラームス作曲
ハンガリー舞曲第1番
 - 宮川彬良 作曲
マツケンサンバII 他

令和7年度麻生OB会



こうざき聡事務所
〒824-0602 田川郡添田町大字添田1417
TEL: 0947-82-5559 FAX: 0947-82-5533

こうざき聡 ホームページ **こうざきさとし** 検索